

～心臓血管センターからのお知らせ～

心臓血管センター医師のお話②

『足のお話』



副院長 兼 心臓血管センター長
仙石厚生病院 非常勤部長
宗久 雅人

「足が痛い」「足が冷たい、しびれる」「足の色が悪い、青い」「足にできた傷が 治りにくい」など「足」の症状の中に、足に血流を送る動脈が動脈硬化によって狭くなって血流が低下する病気「閉塞性動脈硬化症」が原因となる場合があります。

典型的な症状としては、初期には「間欠性跛行」という症状が起こります。これは、連続して長く歩いていると、ある程度のところで腰から下肢、特に下腿(ふくらはぎ)が張ってきて痛くなって歩けなくなり、少し休んでいると楽になってまた歩けるようになるというものです。

足が疲れやすくなったぐらいしか感じないことも多いですが、「閉塞性動脈硬化症」は全身の血管の動脈硬化のサインです。整形外科などを受診して、筋肉や関節、神経を調べても原因が分からず、腰の病気からの症状と思われる場合もよくありますが、見落とすと症状がよくなるだけでなく、感染を合併して最悪の場合には足を切断しなければならなくなることもあり、要注意です。

足の血流は、「ABI」検査という非常に簡単な血圧測定検査によって外来ですぐに異常を見つけることができます。超音波検査では、実際どの部位の血流が悪くなっているかを知ることができます。カテーテルを使った血管内治療(血管を広げる治療)により、数日間の入院で治療することもできる場合が多く、手術後すぐに足の症状の改善を実感できると思います。また、重症になると安静時でも足が冷たく感じたり、一番問題となるのは「足の傷が治りにくい」という重症下肢虚血の状態です。足の傷は主に足の指や踵(かかと)に出来ることが多く、潰瘍のように皮膚が黒くなり、皮膚科で処置を続けてもなかなか良くなりません。そのような場合は、血流が極度に低下している可能性があります。カテーテル治療などの血行再建が成功すると、日に日に傷が良くなるのが期待できます。心当たりのある方はぜひ一度下肢血流の検査(ABI)を心臓血管センター外来にて受けることを勧めます。また、閉塞性動脈硬化症の患者さんのうち、4～5人に1人は心臓に血液を送る冠動脈が動脈硬化によって狭くなる病気「虚血性心疾患」が合併していると言われています。



動脈硬化は全身に起こる病気ですが、特に動脈硬化が起こりやすいといわれる「高血圧症」「脂質異常症」「糖尿病」「喫煙習慣」のある方は、「ABI」検査によって動脈硬化の度合いを簡単に調べることができますので、心臓血管センター外来までお気軽に御相談ください。

こんな足に、お悩みではありませんか？



事務部 医事課
中井 達也

「心臓の血管内治療における費用」のお話

心臓カテーテル検査(治療)を勧められたけど、費用ってどれくらいかかるんだろう？と心配する患者さんやご家族は多いと思います。なんとなく高そうなイメージありますよね。心臓カテーテルと言っても「検査」として行うものと、「治療」とでは金額は大きく違います。カテーテル検査ですと1泊2日入院、1割負担の方で2～3万円程度ですが、患者さんによっては検査項目や使用材料が増え、その分金額は高くなります。3割負担の方は6～9万円とそれなりに高額です。そして「治療」になると3割負担の方で20万円、30万円と金額も上がり、治療によっては50万円以上かかる方もいらっしゃいます。ですがご安心下さい。費用は抑えることが可能です。ここでは入院を前提にお話しさせていただきますが、70歳以上の1割、2割負担の方は、月々の限度額が¥57,600までと上限が決められていて、それ以上医療費はかからないようになっています。いつも通り保険証や高齢者受給者証を病院に提示するだけでよく、特別な手続きなども不要です。3割負担の方でも保険者(保険証の大元のところ)で高額医療の一種である「限度額適用認定証」を申請・発行していただくことで、月々の支払金額に上限を設けることができ、入院(治療)費を抑えられます。ですので、過度に費用面を心配せず、安心して治療に臨んでいただきたいと思います。制度の詳細や申請方法、支払いが不安、という方は各病棟事務に是非ご相談ください。こういった制度に関する情報発信をしていくことでこれから治療に臨む方や入院を必要とする方の一助となれば幸いです。

広報総括挨拶



臨床工学部
國井由花
出身
宮城県塩釜市
趣味
旅行(国内外)

今年1月からお世話になっております。心臓血管センターの広報を総括しています。地域医療連携室で患者様や医療スタッフ皆様の循環器領域における相談・依頼対応とともに、勉強会など臨機応変に開催しています。特集希望記事や勉強会内容など、何かありましたら、診察待合時間やご都合の良い時、いつでも地域医療連携室へお越し頂けたらと思います。

お知らせ

※次回は6月発行予定、心臓血管センター医師から『心不全のお話』と、看護部から『心臓カテーテル検査入院の流れのお話』予定です。

※えうご期待ください

